

2023年7月3日の豪雨による、西原村、益城町での被災状況(速報)

2023年7月3日に九州地方を襲った豪雨では、熊本県でも木山川が氾濫するなど、大きな被害が発生した。7月4日に熊本県西原村から益城町にかけて実施した被災地調査から被災の状況を報告する。

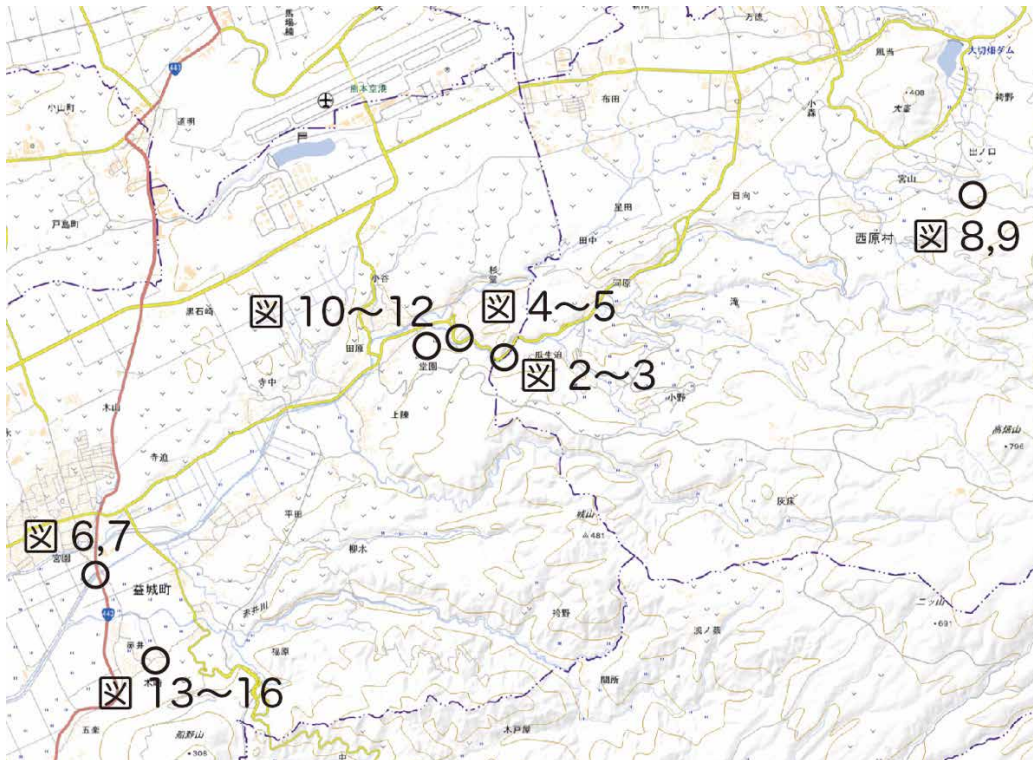


図1 調査地および写真撮影位置。基図は地理院地図

木山川の状況



図2 木山川の状況。河岸が大きく侵食される。



図3 破壊された護岸。



図4 魚道の破損状況.



図5 洗掘により法面保護工の下部が浮いている.



図6 堤防道路に流木が散在する. 写真右が木山川.



図7 氾濫堆積物に覆われた水田. 植生に泥が付着しており, 破線が氾濫時の水位を示している.

西原村出ノ口(いでのくち)での斜面崩壊



図 8 出ノ口断層の断層崖の下部に崩壊が発生.



図 9 崩壊面は先阿蘇火山岩類と崖錐堆積物が見られる.

益城町堂園での斜面崩壊



図 10 遠望からは崩壊面上部は Aso-1 火砕流堆積物の強溶結. 中部は下陳(しもじん)礫層と推察され, 下部は不明である. 斜面上に巨礫が散在する.



図 11 布田川断層の断層崖での斜面崩壊. 写真左に古い崩壊箇所対策工が見える.



図 12 崩壊堆積物に含まれる礫は Aso-1 の強溶結と見られる.

益城町赤井での斜面崩壊

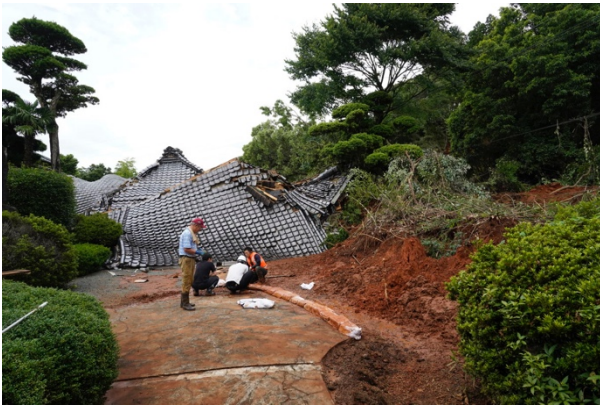


図 13 崩壊堆積物により押しつぶされた浄恩寺



図 14 崩壊面側からみた浄恩寺



図 15 崩壊面の状況



図 16 崩壊堆積物は赤井火山の火砕丘を構成する降下火砕物の風化物。風化により粘土化している。

斜面崩壊の発生地点

これらの斜面崩壊の発生地点を、都市圏活断層図に示す(図 17)。いずれも断層上もしくはその近傍に位置しており、2016 年熊本地震による断層変位と強振動による斜面の脆弱化が崩壊要因の一つであることを示唆している。ただし、本報告は概査であることから今後の精査が必要である。

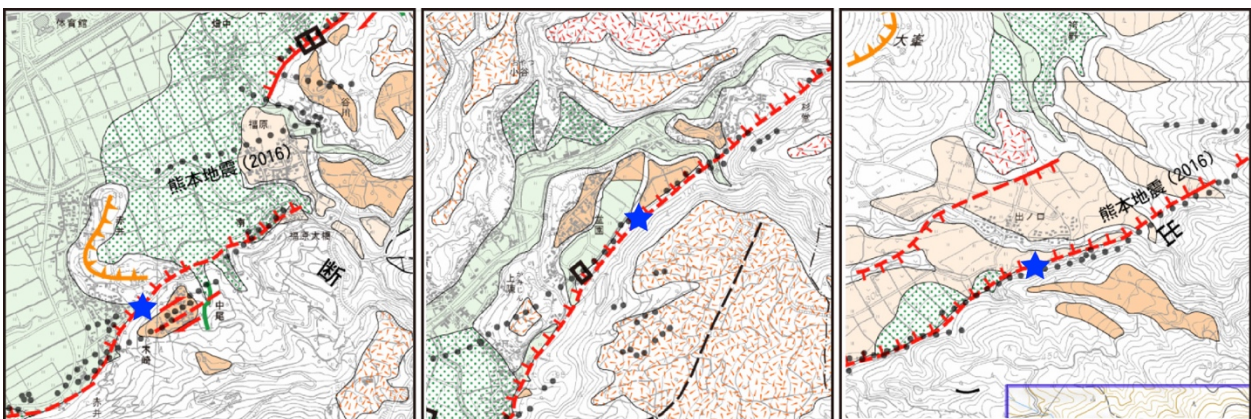


図 17 左図から益城町赤井, 益城町堂園, 西原村出ノ口。青の星印が斜面災害箇所。基図には国土地理院都市圏活断層図を使用。

(担当: 鳥井真之)

お問い合わせ先

くまもと水循環・減災研究教育センター 減災型社会システム部門

〒860-8555 熊本市中央区黒髪 2 丁目 39 番 1 号

熊本大学黒髪南地区工学部一号館 4 階 A426

TEL: 096-342-3489 E-mail: gensai2@kumamoto-u.ac.jp